

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人七久会		
事業所名	グループホームおこんご (第一ユニット)		
所在地	諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	令和2年1月12日	評価結果確定日	令和2年3月31日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺めることが出来る場所にあり、病院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急の対応にご家族様も安心していただいております。また、病院受診時に訪ねて来られる方もありコミュニケーションの場となっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270401195-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270401195-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年2月8日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは理念に込められた自然と出てくる「笑顔」の追求を目指して、その人らしく暮らしていくために何を支援すべきか考え工夫し個々の能力にあった自立に繋げている。管理者および職員間の信頼関係により理念が自然と共有されており、利用者本位の個性の高いアプローチを可能にしている。次にホームは扉一枚で併設の病院につながっており、利用者の医療的な管理がやりやすい環境であるし、利用者や家族にとっては安心材料である。職員にとっても急変時等の場合に引継ぎやすい環境であるため、安心して利用者支援ができる。最後に計画書作成に関して、各介護職員が作成の過程で計画作成担当者や管理者の助言を得ながら作成している。担当者の利用者をよく観察することに繋がるし、責任感もより一層高まることが期待される。また、毎月の職員会議でサービスの実施状況や支援方法の確認を行うことで、統一したケアを提供できている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながらご利用者と関わるよう職員間で意識付けしている。	「安らかな笑顔の追求」の理念には、地域の中でその人らしい暮らしの日常から、自然と笑顔がたくさんでようとの思いが込められている。そのために、日々の支援に真摯に取り組み、努力を積み重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接のグループホームの交流や併設の病院を受診された方の面会。又、入院患者様との定期的な交流会も実施している。	地域の小学校・中学校、また高校生の職場体験の受け入れをしており、交流が恒例となっている。ホームの母体である併設する病院は、古くから地域医療に携わっており、顔見知りの外来・入院患者と顔を合わせる機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症ミニ講座を設け、認知症の人の理解や支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、カンファレンスにて全スタッフに報告して、サービスの向上に活かしている。	利用者家族、市職員、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、隣接するGH施設長が参加している。会議では行事報告や利用者の状況を伝えている。会議からの希望により「認知症ミニ講座」を開き地域の方へも話してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや運営推進会議に出席して頂く事により顔を合わせる機会も多く、グループホームの実情を伝えながら協力的体制を取って頂くようしている。月1回市のさわやか相談員の受け入れを行っている。	市の「さわやか相談員」制度に参加しており、相談員が来訪し、利用者へ要望などを聞き取りしている。内容を管理者に報告し、その回答を文書記載したものを、職員へフィードバックし、利用者支援の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険がある場合のみ原則として、基本的に拘束しないよう取り組んでいる。	母体である医療法人内に身体拘束委員会があり、病院・老人ホーム・グループホームで月1回会議が開かれている。原則身体拘束はおこなっていない。夜間、コールなしでトイレに行かれる方にのみ、安全のためセンサーマットを使用し、合わせて物音で駆けつけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、利用されている利用者の方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設サービス計画書の作成時、利用者様や家族様に意見や意向を尋ねている。また、面会時や日常の中で気軽に声をかけてもらっている。ご意見箱も設置している。	運営推進会議や面会時にお話を聞き、伝えやすい雰囲気づくりに留意し、意見・要望を伺っている。「さわやか相談員」制度により、利用者の意見・要望をサービス向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスを開催しており、必要性のある意見に対しては案を作成して、代表者に活動を繋げている。	職員から管理者へ意見を伝えやすい風通しの良い職場である。管理者および職員間の距離感が近く、毎日の支援を通して理念に基づいたケアが自然と共有されており、やりがいを持つことでサービスの質の向上・確保につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事の際、休日出勤者に対しては超勤書類を提出し給与にプラスして貰っている。希望公休2回、勤務変更届け出も制限なく変更できるように配慮してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は観覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い、できるだけ参加するよう呼び掛けている。研修は勤務扱いにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し他施設のスタッフと交流を図り、サービスの向上に努めている。市の連絡協議会の役員会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話ができる時間を確保して、支援に繋げる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにおける状況を把握した上で、家族様が困っていることや不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等も確認し、何が必要かを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の生活歴等を伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えて行くための協力関係を築ける事が多くなってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見などのドライブ時以前生活を行っていた自宅などをルートの中に計画している。ならびに家族との会話をはじめ、訪問された方との会話のかけ橋等にも努めている。	扉一枚で併設の病院とつながっていることにより、入院中の知人や親戚のお見舞いに来たり、病院の大浴場利用時に知り合いと会うなど、馴染みの人と顔を合わせる機会が多い。職員が気がけてつながりを促し、会話の橋渡しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を持ち、孤立しないようにスタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いができるよう支援している。体操やゲーム等を取り入れ一緒に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は家族様にお伺いし、思いを支援に繋げている。	新しい入居者を受け入れる場合、大半の利用者が病院を退院すると同時に入居することによって、初回面接は病院であることが多いとのことであった。病院からの情報を基に本人や家族と面接を行い、希望や意向、利用者の歩んできた歴史や、性格等まで確認するようにしている。特に大切にしているのは利用者の入居に対する理解とのこと、難しい部分ではあるが、丁寧に説明を繰り返しているとのことであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し、本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み把握に努めている。面会者の方から話を聞いたりした事を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際の関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め全職員での意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。	チームで作る介護計画の特徴的な取組みとして、各介護職員が作成の過程で計画作成担当者や、管理者の助言を得ながら介護計画書を作成している点である。職員それぞれ1～2名の担当を持っているとのことで、担当制にすることで各職員の責任感が更に出てきた。利用者の支援に対する状況確認を毎月の職員会議で行っており、気になる点等情報の共有を定期的に図ることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉等の記録が以前より記録できているが、言動や行動が無い方の様子が伝わる記録が少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対して柔軟に対応するようにしているが、サービスの多機能化について実践できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の高齢化に伴い、自治会行事等に参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院のかかりつけ医の方が殆どで、ドアー一枚向こうの病院へ受診、往診ができています。	併設の病院の医師がかかりつけ医であることが大半とのことであった。ドアー一枚で病院とつながっているため、受診や往診がしやすい環境にある。病院と併設のホームであることは強みの1つでもあるため、利用者や家族の安心材料となっている。併設の病院以外の受診は、基本的に家族対応で行っていて、主治医から情報提供書を書いてもらったり、必要に応じてホームの様子等も書面で渡すこともあるとのことであった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師に報告し、受診時即対応してもらい、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院なので、Drにより利用者様、ご家族様に説明を行い、その後の情報も交換できている。他の医療機関の時は連携室との情報交換ができ、お見舞いに行き、情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設の為、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち意向をお聞きしている。看取りの支援も行ったが、近年看取り等はない。	重度化や看取りに関する指針を試作で作ってはみたものの、完成にまでは至らなかったとのことであった。利用者をホームでどの段階まで生活支援するか、主治医と話し合って決定している。ヒアリングの中で、重度化とは経口から飲食ができなくなったり、常時吸引等の医療行為が必要な状態とのことであった。最後に、看取りに関してはここ2年ほど実施していない。	利用契約時等に重度化の際や看取りの方針を書面で示すことが望ましい。書面の内容は重度化のおおよその状態像を示したり、看取りに関しては事業所の方針を示すことが重要である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関が併設の為、急変や事故発生時には報告し指示を受けている。全ての職員が実践力を身に付けているとは言い難い。研修に参加したり、急変時等はカンファレンスで報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	事業所だけでなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。	火災に対する訓練は定期的実施していることを書面等で確認できたが、風水害に対する訓練は、これから準備をして実施に向けた取組みを進めていく方針であった。また地域との協力体制については、主に近所の料理屋や同一敷地内の病院及び福祉施設と、有事の際の連携を取れるようにしている。	毎年のように日本列島のどこかで自然災害が発生している事実を考えると、想定される災害に備えるべく、法人として一体的に自然災害対策訓練を実施することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生、歴史があり色々な経験や思いがある。それを否定せず受容し共に寄り添う声かけや対応を心掛けている。	利用者一人ひとりの尊厳を保持するために、まずは入居時のアセスメントで、可能な限りその人を知るために多くの情報を得ている。また、入居後も支援の中から情報収集を怠らず、知り得た情報は職員皆で共有している。その他、言葉使いについては地域ならではの方言を無理に抑えることはせずに、利用者の状況に合わせて、言い方やトーンに気を付けているとのことであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を利用し、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり行動に障害を感じられる時は見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際は、本人に衣類を選んで頂いたり、自己決定しにくい方には、行事等はおしゃれができるよう支援している。また、本人の馴染みの美容室でカットができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の意思があり、一緒に食事の準備や後片付けをしている。(一部のご利用者に限られる) 饅頭や桜餅を一緒に作ったりしている。	以前は利用者と職員と一緒にカレー作りや、米研ぎをしたりしていたとのことであるが、高齢化や重度化に伴い、しばらく機会が途切れていた。しかし、職員からぼた餅や桜餅づくりを通じて、季節感を味わってもらおうと提案があり、ここ最近は利用者と一緒に作っている。この他にも利用者がテーブルや茶わん拭きを実際に行っている姿を拝見した。できるだけ利用者が自分でできることは、職員が声かけしながら手伝ってもらっているとのことであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事形態、誤嚥がないように配慮し、厨房スタッフとも連携している。毎食の食事摂取量も記録して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りや介助を行っている。義歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常は定時でトイレ誘導を行っているが、尿意のある一部の方はその都度トイレ介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	日中の排泄支援については、利用者が座位を保てる限り、基本的にトイレでの排泄を徹底しているとのことであった。現在、尿意がある利用者のうち、1人の利用者がリハビリパンツから布パンツに移行中のケースがあるとのことであった。尿意があれば排泄のパターンを把握しやすいため、少しずつ機能向上に向けて取り組みを続けている。一方、夜間はポータブルトイレの使用やオムツの利用者もいるとのことであった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナや蒸かし芋を提供したり、飲料水を多めに取って頂く。また、野菜ジュースやヨーグルト飲料を取ってもらう等工夫している。飲水量が少ない方にはお茶ゼリーを摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、医療機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日、時間が決まっている。必要に応じ、事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。	利用者の入浴に関しては、基本的に週に2回午後から実施している。機械浴の設備も整っているため、重度化しても浴槽につかることができる。利用者が熱発等でどうしても入浴ができない場合は、清拭や更衣のみに変更している。また、どうしても入浴を好まない利用者の場合は、日にちを変えたり、時間を変える等の工夫を行っている。利用者によっては声かけの方法や、更衣の際の手順を変える等試行錯誤しながら、スムーズな入浴ができるように、職員皆で情報を共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日常の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状、お薬ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器、お盆拭きや洗濯たみ等をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、戸外へ出かけられるように支援している。	重度化に伴い外出する機会は少しずつ減ってはくるものの、職員の促しで玄関先や屋上に外気浴に行ったり、日光浴に行ったりしている。また、ホームから花火を見たりして、季節感を味わえるようにもしているとのことであった。墓参りやちょっとしたお出かけは、家族の協力のもと実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、自販機からジュース等を買われたり、散髪代を支払われたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事務所から本人自ら電話をされる。一部の利用者へ支援が限られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの色を統一し、食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。	両ユニット共に利用者の写真を多く飾っていたり、利用者と職員が一緒に作った季節感のある飾り物を随時入れ替えている。また、ホーム内の動線上は、車椅子で移動する利用者にとっても、自由かつ安全に移動ができるように配慮がなされている。利用者にとって一部の危険な箇所には、危険喚起を示すパイロンを立ててあった。また、空調に関しては職員が利用者の声を聞きながら一元的に管理しており、特に冬場は湿度に神経を使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新しい建物になり共同空間に余裕ができ自由に過ごせている。ソファも置きくつろいで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。	ホーム内への私物の持ち込みについて、危険が及ばない限り、基本的に制限はなく、見学できた居室は、それぞれに利用者の個性を感じる事ができた。また、利用者は布団やコップ、茶碗、箸等も自由に自分が好きなものを持ち込めるため、全てが同じものという、画一的な印象は覚えなかった。最後に居心地のいい空間作りの一環として、温度や湿度に気を配っていて、特に冬場はベッドの頭の近くにぬれタオルを設置して、乾燥を予防しているとのことであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等にははすりを付けたり工夫している。照明の工夫。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人七久会		
事業所名	グループホームおこんご (第二ユニット)		
所在地	諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	令和2年1月12日	評価結果確定日	令和2年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺めることが出来る場所にあり、病院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急時の対応にご家族様も安心していただいております。また病院受診時に訪ねて来られる方もありコミュニケーションの場となっております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270401195-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270401195-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年2月8日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながらご利用者と関わるよう職員間で意識付けしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接のグループホームの交流や併設の病院を受診された方の面会。又、入院患者様との定期的な交流会も実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症ミニ講座を設け、認知症の人の理解や支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、カンファレンスにて全スタッフに報告して、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや運営推進会議に出席して頂く事により顔を合わせる機会も多く、グループホームの実情を伝えながら協力体制を取って頂くようしている。月1回市のさわやか相談員の受け入れを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険がある場合のみ原則として、基本的に拘束しないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、利用されている利用者の方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設サービス計画書の作成時、利用者様や家族様に意見や意向を尋ねている。また、面会時や日常の中で気軽に声をかけてもらっている。ご意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスを開催しており、必要性のある意見に対しては案を作成して、代表者に活動を繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事の際、休日出勤者に対しては超勤書類を提出し給与にプラスして貰っている。希望公休2回、勤務変更届け出も制限なく変更できるように配慮してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は観覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い、できるだけ参加するよう呼び掛けている。研修は勤務扱いにしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し他施設のスタッフと交流を図り、サービスの向上に努めている。市の連絡協議会の役員会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話ができる時間を確保して、支援に繋げる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにおける状況を把握した上で、家族様が困っていることや不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等も確認し、何が必要かを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の生活歴等を伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えて行くための協力関係を築ける事が多くなってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見などのドライブ時以前生活を行っていた自宅などをルートの中に計画している。ならびに家族との会話をはじめ、訪問された方との会話のかけ橋等にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を持ち、孤立しないようにスタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いができるよう支援している。体操やゲーム等を取り入れ一緒に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は家族様にお伺いし、思いを支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し、本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み把握に努めている。面会者の方から話を聞いたりした事を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際の関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め全職員での意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉等の記録が以前より記録できているが、言動や行動が無い方の様子が伝わる記録が少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対して柔軟に対応できるようにしているが、サービスの多機能化について実践できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の高齢化に伴い、自治会行事等に参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院のかかりつけ医の方が殆どで、ドア一枚向こうの病院へ受診、往診ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師に報告し、受診時即対応してもらい、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院なので、Drにより利用者様、ご家族様に説明を行い、その後の情報も交換できている。他の医療機関の時は連携室との情報交換ができ、お見舞いに行き、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設の為、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち意向をお聞きしている。看取りの支援も行ったが、近年看取り等はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関が併設の為、急変や事故発生時には報告し指示を受けている。全ての職員が実践力を身に付けているとは言い難い。研修に参加したり、急変時等はカンファレンスで報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	事業所だけでなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生、歴史があり色々な経験や思いがある。それを否定せず受容し共に寄り添う声かけや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を利用し、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり行動に障害を感じられる時は見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際は、本人に衣類を選んで頂いたり、自己決定しにくい方には、行事等はおしゃれができるよう支援している。また、本人の馴染みの美容室でカットができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の意思があり、一緒に食事の準備や後片付けをしている。(一部のご利用者に限られる)饅頭や桜餅を一緒に作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事形態、誤嚥がないように配慮し、厨房スタッフとも連携している。毎食の食事摂取量も記録して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りや介助を行っている。義歯洗浄もやっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常は定時でトイレ誘導を行っているが、尿便意のある一部の方はその都度トイレ介助を行い、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナや蒸かし芋を提供したり、飲料水を多めに取って頂く。また、野菜ジュースやヨーグルト飲料を取ってもらう等工夫している。飲水量が少ない方にはお茶ゼリーを摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、医療機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日、時間が決まっている。必要に応じ、事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日常の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状、お薬ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器、お盆拭きや洗濯たたみ等をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って、戸外へ出かけられるよう支援している。一部の方に限られるが、行きつけの理容室を利用されている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、自販機からジュース等を買われたり、散髪代を支払われたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事務所から本人自ら電話をされる。一部の利用者へ支援が限られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの色を統一し、食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新しい建物になり共同空間に余裕ができ自由に過ごせている。ソファも置きくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等にはてすりを付けたり工夫している。照明の工夫。		